



登米市議会議長

まさのり
及川 昌憲

迎春

2021 年頭の

あいさつ



登米市長

もりひろ
熊谷 盛廣

「心のオンライン」^{ほむら}炎を灯す議会として

一方で、高齢化が進むふるさと。高齢者の社会的孤立は絶対にあつてはなりません。誰かと一緒に見る、聞く、作業するなど同調できるコミュニティづくりが不可欠です。人口は密だが人のつながりが希薄な都市部に対し、人口はまばらだが人とのつながりが密である地方。その価値をしっかりと磨いていくことが、コロナ時代の「持続可能な地域社会」を作る根っこなのかもしれません。

明けておめでとうと、おめでとうございます。期待に夢を膨らませ迎えた新時代令和が、新型コロナウイルスの猛威にさらされるとは、誰も予想できなかったものではありませんでした。

盆と正月はふるさとに帰り、家族や親戚、友人と過ごす。ふるさとに住む私たちが家族や親戚の帰省を首を長くして待っている。コロナ禍にあり「帰っておいで」と言い出せない。「帰りたいけど、万が一うつしてしまつたら」と帰省を控える。ふるさとを出て頑張る皆さんが、堂々と家に帰れるようにしたい。そんな気持ちでいっぱいです。

私は、17年4月に市長に就任して以来、「人口減少対策」「産業振興」「地域医療の充実」「教育振興」「健康なまちづくり」「安全安心に暮らせるまちづくり」「効率的な行財政運営」の7つに力を注ぎ、まちづくりを推進してまいりました。21年度は、「病院改革」「教育改革」「行財政改革」の3つの改革を柱に位置付け、さらなる具現化を図るとともに、

コンパクトシティ・プラス・ネットワークの理念の下、市街地と地域拠点の活性化に向けて立地適正化計画の策定に取り組み、高齢者や子育て世代にとっても、快適で機能的な住みやすい、持続可能なまちづくりの方向性について検討してまいります。

本年はいよいよNHK連続テレビ小説「おかえりモネ」の放送が開始されます。また、長沼を会場として行われるオリンピックポット競技の事前合宿や21年度から使用される小学4年生の教科書に8ページにわたり登米町が掲載されることなどを通じ、登米市の魅力が全国に発信されることから、観光振興や地域活性化、関係人口の拡大や移住・定住の促進など、地方創生にしっかりとつなげていきたいと考えています。

私が市政のかじ取りを担わせていただいているから、間もなく4年が経過しようとしています。これまで、市民の皆さまのお力添えをいただきながら、一歩一歩着実にまちづくりに取り組むことができました。今後も、効率的で効果的かつ良質なサービスを提供できるよう、市民目線を持ち、創意工夫で課題解決に努め、本市の将来像「あふれる笑顔豊かな自然住みたいまち」とめ」の実現に向け、取り組んでまいりますので、一層のご支援をお願い申し上げます。

結びに、新しい一年が皆さまにとりまして希望に満ち、健康で笑顔あふれる年となりますよう心からお祈り申し上げます。新年のあいさつといたします。

国と地方の関係を対等・平等とする地方分権一括法の施行から20年が過ぎました。地方分権の進展は、それぞれの地域の特性を大切に、個性ある独自の政策を推し進めるための地方主権への大転換です。地方自治体の政策力量が問われるとともに、結果に対して重い責任を負わなければなりません。本市は合併して15年。各町の現状はどうなったのか。このままで本当に良いのか。それぞれの町の個性、特性は生かされているのか。しっかりと検証しなければなりません。

昨年、とめ青年会議所と登米市議会が共催で、市内9町の子どもたちと「子供議会」を行い、登米市が誕生した2005年生まれの中学生在が参加しました。学校行事が大幅に縮小される中、中学生はどんな思いで過ごしているのかとても心配していました。しかし、彼らからは、登米市の問題・課題を捉えた提言が寄せられました。コロナ禍があつても、現在と未来をしっかりと見つめ、静かに「心を燃やし」進もうとしていました。